

中間テストでよい点を取るには

—定期テストは準備がよければ誰でも100点が取れるもの—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2)来週ぐらいから6月初旬にかけて、多くの中学校、高等学校では1学期の中間テストが行われます。ただ栃木県の宇都宮市内の学校は2学期制をとり、前期・後期としていますので、前期試験は6月下旬頃からになると思います。
- (3)栃木県内をはじめ、群馬県・茨城県の多くの学校では1学期の中間テストが目前ですので、今日は「中間テストでよい点数を取るにはどうしたらよいか」についてお話をさせていただきます。この番組は24年間も続いていますので、何回もお話させていただいた内容ですが、おさらいということで今年もお話いたします。

2. 中間テストでよい点を取るには—定期テストは準備がよければ誰でも100点が取れるもの—

- (1)中学校や高校の定期テストは、1学期の中間テストと期末テスト、2学期の中間テストと期末テスト、3学期の学年末テストと、1年間に5回実施されるところがほとんどです。
- (2)これらの定期テストでよい点数を取る方法は、中学校でも高校でもだいたい決まっています。実は大学や短期大学、専門学校でも全く同じです。一番大切なことは、テスト範囲が示された表を早めに手に入れることです。その表には、教科書の○ページから○ページまでが出題範囲になっているかが教科ごとに出ていますので、それをよく確認して下さい。そのあとは、そこをひたすら勉強するだけです。
- (3)では、どのようにしてひたすら勉強すればよいのでしょうか。
- (4)まずは、教科書に書いてある一語一語の意味をよく「理解」することが大切です。「理解」とは、「うんなるほど」と腑(ふ)に落ちること・じわっとわかることを言いますので、よく理解できないことをいくら覚えようとしても、それを使って問題を解こうとしても、できるはずはありません。ですから、まず大切なことは、教科書に書いてあることを十分に「理解」することです。
- (5)ただ、教科書を読んでいると、この言葉の意味は何だろう・この地名の場所はどこだろうという箇所、つまりよくわからないことが出てくると思います。この解決方法は、辞書の活用です。世の中にはいろいろな種類の辞書があります。すべての教科の勉強に国語辞典、漢字辞典は大事です。理科の事典、歴史の事典、地理の事典など科目ごとの事典もあります。英和辞典、和英辞典も大事ですね。それらを使ってわからないことばを調べ、納得することが大切です。つまり、勉強をするときは、まず教科書を読み、そこに書かれている一語一語のことばの意味を確かめながら「うんなるほど」と「理解」することがまずは一番大事です。わからないことばが出てきたら辞書・事典を用いてその意味などを徹底的に確かめることが大事であるということです。
- (6)これに加えて、学校の授業中にとったノートを活用することも大事です。ノートを開いて、授

業中の先生の説明を思い出しながら、これはこのようなことだったなと「理解」していくことです。

- (7) また、学校で使用している理科の資料集、社会の資料集、国語の資料集などの各科目の教材のテスト範囲にも該当するページをじっくり読むこと。これも、よいテスト勉強になると思います。教材を読むときに国語辞典と英和辞典などの辞書と、各科目の事典・用語集は大事です。
- (8) さらに、学校で使っている各教科の問題集をもう一度やり直してみることも大事です。教科書をじっくり読む→学校の授業中にとったノートを見直す→学校で使用している資料集を読む→学校の問題集をもう一度解き直す、これが一番最初に行うべきテスト勉強です。
- (9) このようにして、学校の授業で一度学習した内容が「うんなるほど」と十分に「理解」できたら、次は、スミからスミまで一語残さずひたすら身に付けること、つまり丸暗記をすることです。
- (10) 丸暗記をするには、いくつかのやり方があります。一つは、声を出してよく読むことです。英語は、学校の授業で一度学習し意味のわかった教科書のところを、繰り返し繰り返し大きな声で読むと、読んでいるうちに全部覚えることができます。このときに心がけたいことは、覚えるつもりで読むことです。教科書の本文や大事な問題などを、覚えようと意識して、何度も読み続けると覚えられるのです。
- (11) これは、英語だけでなく、数学や国語、理科、社会、すべての実技科目にも極めて有効です。教科書に書かれている内容が口をついてスラスラ出てくるようになるまで、何度も何度も声を出して読んで下さいね。
- (12) これを「音読練習」と言います。教科書の音読練習だけでなく、問題集の音読練習、資料集など副教材の音読練習、ノートの音読練習も非常に効果的です。
- (13) ところで、学校の定期テストはペーパー試験(記述試験)ですから、文字で正確に書けなければ点数になりません。得点できません。ですから、書く練習、つまり「書き取り練習」も必要です。
- (14) 長い英単語や数学の公式などは、書いて覚えなるとなかなか覚えられません。理科や社会の重要な語句も同様です。ですから、読んだ人の誰もが理解できる書体で書けるようにすること。教科書の書体つまり楷書(かいしょ)で書いて覚える練習を十分に行って下さい。このとき、正しい筆順で書くことも大事ですよ。
- (15) 最後は、「計算・問題練習」です。教科書にある英単語や語句はもちろんのこと、問題集にある問題についても繰り返し練習して下さい。特に問題は、見た瞬間にパッパッパッと正解が出せるくらいになるまで何度も何度も練習しましょう。
- (16) つまり、一度理解したものを身に付けるには、3つの練習が必要であるということです。最初は「音読練習(声を出して読む練習)」、次は「書き取り練習(書く練習)」、最後は「計算・問題練習(問題を見た瞬間にパッパッパッと正解が出せるまでにする練習)」です。

3. おわりに

- (1) 慶應義塾大学の塾長を務められた小泉信三先生の言葉に、「練習は不可能を可能にする」という言葉があります。この言葉に従うと、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」をきちんと行えば、誰でも定期テストで満点が可能になるということです。
- (2) 一見不可能に思えますが、誰でもこの3つの練習でそれを可能にすることができますので、ぜひ頑張ってください。そして、定期テストでよい点数を取って下さいね。学校の定期テストは、出題範囲や教材が決まっていますので準備さえよければ、誰でも全科目100点が取れますよ。

— 2012年8月20日加筆・訂正、林明夫—